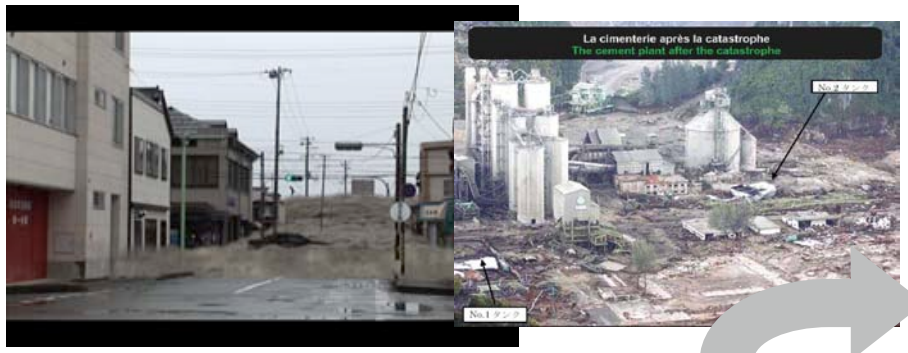
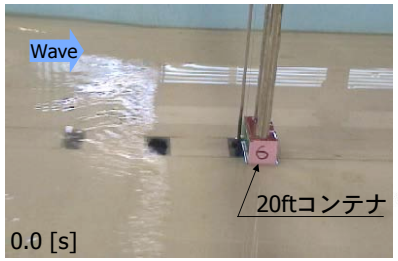
4. 津波研究体制:国際連携チーム

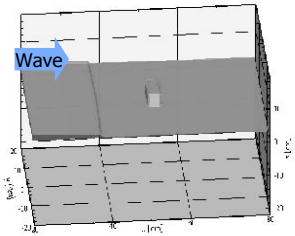


東北大学G:日立TO, 米国NOAA, アジア工科大
総合津波被害シミュレーション開発,初期波源推定,津波防災プラットフォーム

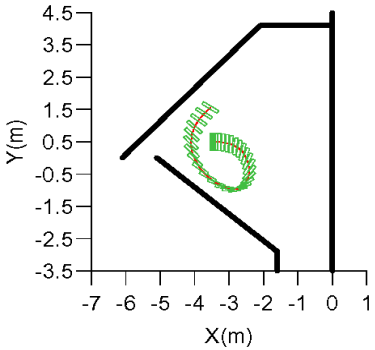
名古屋大学G:米国OSU
漂流物・船舶移動シミュレーション開発(要素技術)

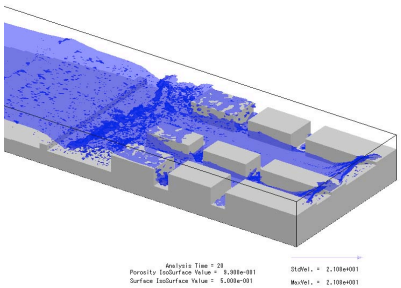


実験結果



計算結果





港湾空港研G: 国内外, 日米UJNR
臨海地域高精度津波遡上被害シミュレーション開発(総合・応用技術)

4. いままでの実績：国際的優位

◆世界最先端の数値解析技術（再現・予測）

- IOC/IUGG国際TIME-Project，3次元FDM，

◆最新のコンピューター可視化技術

- 2001年日経サイエンス・ビジュアルフェスタ優秀賞

◆近年津波災害調査の実施とデータベース

- 海外15箇所，国内10箇所，IAEAマニュアル改訂，中央防災会議専門委員

◆国内外の津波研究の中心

- 国際WS・会議の主催，

5. 研究成果の現状と計画

	津波複合災害シミュレーション	津波避難情報システム
成果	気象庁の量的予報，IOC/IUGGマニュアル化 世界スタンダードへ	ネットワークモデル，認知不協和モデル IOC津波警報システムへの支援
研究協力体制	気象庁，港湾研究所，名大など	東大，東北大情報学，米国NOAA

	津波複合災害シミュレーション	津波避難情報システム
５年	南海道での複合災害予測 重要施設での災害シミュレーション	モデル地区での開発 ユビキタス社会での情報システムの展開
１０年	全国への展開 リスクマップの作成と公開	広域での避難支援システム 安全・安心社会への情報提供